

阿智村辺地対策総合整備計画

平成30年度～平成34年度(2022年度)

平成30年 3月

阿 智 村

阿智村の概要

(地勢)

阿智村は、長野県の南端下伊那郡の西部に位置し、西は恵那山を境として岐阜県中津川市に接し、北は木曾郡南木曾町に接し、東は飯田市と下條村、南は阿南町と平谷村に接しています。昭和31年9月に会地村、伍和村、智里村の3カ村が合併、さらに平成18年1月に浪合村、平成21年3月に清内路村と合併して現在の阿智村となっています。

村の総面積は214.43km²、東西16.1km、南北23.8km、周囲79.0kmで、標高は410mから恵那山山頂2,191mに及び、その中に56の集落が点在しています。総面積のうち山林原野が大半を占め、農地はわずかです。

(人口動態等)

本村の人口は昭和50年から平成12年までの25年間、概ね7,800人程度で推移してきましたが、近年は減少傾向にあり、平成30年1月現在6,576人、世帯数2,389戸、高齢化率33.52%、1世帯あたりの人口約2.8人と少子高齢化や核家族化が進んでいます。今後も減少の見込みとなっており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、25年後には平成22年人口の約7割まで減少すると予想されています。

(産業)

農業を中心とした第1次産業は、年々減少傾向にあります。近年は、新規営農者の確保や後継者の育成につとめています。しかし、農業を取り巻く情勢は、グローバル化、就業者の高齢化、後継者不足等厳しい情勢にあり、引き続き農業の振興に勤めるほか、観光業など他の産業と連携した活性化が求められています。

第2次産業では、近年はグローバル化による地域経済の縮小の影響、国内産業構造の調整期の影響で減少傾向にあります。

第3次産業では、昼神温泉郷をはじめ、村内3つのスキー場や治部坂高原等といった観光地の振興については、経済の低迷、観光指向の多様化、観光地間競争が激化する中で長期にわたり低迷しています。近年、日本一の星空や花桃など、地域発の観光資源の活用により全国から注目されていますが、今まで以上に個性を磨き、一層の発展が求められています。

(財政状況)

平成29年度当初予算において、歳入に占める自主財源の割合は約3割と低く、地方交付税、国庫補助負担金等の依存財源の割合が約7割を占めている状況です。国の財政状況も厳しくなる中、社会資本の整備や住民が望む新たなサービスを提供するために、中長期を展望した予算管理や基金・村債等の適切な管理による健全な財政運営に努めていく必要があります。

主な自主財源は次の表のとおりとなっています。

【主な財政指標】

(単位：%)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実質公債費比率	4.9	2.3	0.1
経常収支比率	76.0	72.7	76.3
財政力指数	0.21	0.22	0.22
実質赤字比率	—	—	—
連結実質赤字比率	—	—	—
将来負担比率	—	—	—

(村の総合計画)

阿智村第6次総合計画の基本構想では、村が目指すべき将来像を示し、それを実現するために以下の4項目を横断的施策大綱として定めています。

1. 定住人口の確保・維持
2. 人づくり・健康づくり・地域力
3. 阿智ブランドの確立
4. まちづくり計画

また、村づくりの将来像『暮らす、生きる。阿智家族（住民一人ひとりの人生の質を高められる、持続可能な村づくり）』の実現に向けて、以下の5つの基本目標を掲げます。

- ① 暮らし・いきがい・協働
住民一人ひとりが村づくりを担う意識を持ち協働の村をめざす。
- ② 教育・文化・地域愛
ふるさとを愛し、夢を描いて心豊かな人生を送れる村をめざす。
- ③ 医療・福祉・健康
全ての人が助け合い、健康で幸せに暮らせる村をめざす。
- ④ 産業振興・雇用創出
観光を軸とした産業振興を通じて、雇用創出・阿智ブランドの確立をめざす。
- ⑤ 環境・防災・安心
安心安全に暮らせる環境づくりと、人と自然を大切にした絶景の村をめざす。

阿智村辺地対策事業の実施状況及び今後の整備計画

1 辺地の状況

辺地名	人口 (人)	高齢 化率 (%)	面積 (k m ²)	辺地度 点数	辺地対策事業債 (百万円)					前計画時 の 辺地名
					平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
大野辺地	132	37.9	0.7	97		6.3 ※1	6.2 ※3			大野辺地
伍和南 辺地	415	39.5	4.8	70		24.9				伍和南 辺地
本谷園原 辺地	308	34.4	3.7	106		※1		7.4	2.7	本谷園原 辺地
奥藤辺地	69	39.1	0.5	77		※1 ※2	※3			奥藤辺地
浪合北部 辺地	180	32.8	2.7	119	14.0	11.2 ※2				浪合北部 辺地
浪合東部 辺地	95	40.0	2.1	149						浪合東部 辺地
浪合中央 部辺地	187	39.6	0.7	117		※2				浪合中央 部辺地
浪合治部 坂辺地	82	29.3	3.2	141						浪合治部 坂辺地
上清内路 辺地	225	40.4	4.0	132						上清内路 辺地
計 9辺地					14.0	42.4	6.2	7.4	2.7	

2 これまでの辺地対策事業の実施状況

(1) 前の計画期間中に行った辺地対策事業の実施状況

道路 村道4-168号線 (平成26年度)

道路 村道2-17号線 (平成28~29年度)

道路 村道3-302号線 (平成28年度)

大規模防護柵設置工事 (平成25~27年度)

※2 奥藤辺地、浪合北部辺地、浪合中央部辺地 (平成26年度)

※3 大野辺地、奥藤辺地 (平成27年度)

中学校スクールバス購入 (平成26年度)

※1 大野辺地、奥藤辺地、本谷園原辺地

(2) 前の計画期間中に行った事業の成果

辺地地域における村道を改良し歩道を設置したことで、車両と歩行者のすれ違いがなくなり、住民や観光客の通行の利便性や交通の安全性が高まっています。また、別の村道では十分な幅員が確保されていたことで、交差する県道からの進入が容易に行えるようになり、車両だけでなく歩行者についても安全に通行できるようになりました。

辺地地域を含む村内各地に大規模防護柵を設置したことにより、有害獣の農地への進入を防ぎ、農作物被害の軽減が期待されます。

本谷園原辺地、奥藤辺地及び大野辺地から中学へ通う生徒の通勤手段がスクールバスを購入したことにより確保されています。

3 今後の辺地対策の考え方及び整備方針

(1) 辺地の統廃合による前計画との変更点

大野辺地、伍和南辺地、奥藤辺地の廃止

村内公共交通機関の見直し等により、辺地要件不適合となった3辺地について、今回の辺地対策総合整備計画から対象外とします。

(2) 辺地対策の考え方

阿智村第6次総合計画に則り、村づくりの将来像『暮らす、生きる。阿智家族（住民一人ひとりの人生の質を高められる、持続可能な村づくり）』を推進します。辺地地域においても、住民一人ひとりの人生の質を高められる人づくり・地域づくりをめざします。さらに、日本一の星降る郷であるだけでなく、全てのひとの心のふるさととして人も星も輝く村をめざします。

(3) 整備方針

辺地地区の村道は、生活路線として欠くことできない重要な路線となっていますが、老朽化が進んでおりひび割れている箇所も見受けられます。その上、幅員が狭いためバスや緊急車両等の通行に支障をきたしています。また、観光シーズンには住民だけでなく村外からの観光客も利用するため安全性に不安があります。

このため、村道の改良を行うことにより辺地地区の交通利便性を向上させ、地域住民の日常の利便性や安全性を確保します。

辺地地区内には、農産物の直売所やキャンプ場など自然環境を活かした施設があります。改修等整備を行うことで誘客を図り、雇用の創出等地域の活性化も図ります。

総 合 整 備 計 画 書

長野県 下伊那郡 阿智村 本谷園原辺地
(辺地の人口 308人 面積 3.7k m²)

1 辺地の概要

- | | |
|--------------------|----------------|
| (1) 辺地を代表する町又は字の名称 | 濃間・中央・戸沢・園原・横川 |
| (2) 地域の中心の位置 | 阿智村駒2352-355 |
| (3) 辺地度数 | 106点 |

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地は、従来より農林業を育んできた農業地域のほか、古代東山道をはじめ史跡が多く残る「園原の里」の史跡とスキー場を合わせた観光地域として成り立っています。

整備計画に載せた道路網については、この地域の生活路線として欠くことの出来ない重要な路線となっている一方で、観光シーズンには観光道路としての位置づけを持った道路としての機能も有しています。道路改良を行うことにより他の地域との生活基盤の格差を是正し、辺地住民の交通利便性を向上する計画です。

本辺地の児童は通学にスクールバスを利用していますが、そのバスが村の巡回バスも兼ねており、一部児童がバスの時間に間に合わないときには村職員が臨時で送迎しています。専用のスクールバスを配備することにより、通学の不便さが解消されるだけでなく、安全に登下校できることが期待されます。

平成27年3月に策定した阿智村子ども・子育て支援事業計画に基づき、本辺地にも智里西保育園がありますが、老朽化が進んでおり今後も子供たちが安全に保育園生活を送るためにも改修が必要となります。

3 公共的施設の整備計画

平成30年度から平成34年度（2022年度）までの5年間 (単位 千円)

施設名	事業主体	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
村道改良4-326号線（戸沢）	阿智村	10,000		10,000	10,000
村道改良1-14号線及び4-324号線（戸沢）		11,000		11,000	11,000
村道改良2-17号線（中央）		32,000		32,000	32,000
智里西保育園改築工事		113,600		113,600	113,000
小学校スクールバス購入		8,000		8,000	7,000
合 計		174,600	0	174,600	173,000

総 合 整 備 計 画 書

長野県 下伊那郡 阿智村 浪合北部辺地
(辺地の人口 180人 面積 2.7k m²)

1 辺地の概要

- | | |
|--------------------|-----------|
| (1) 辺地を代表する町又は字の名称 | 阿智村 恩田・荒谷 |
| (2) 地域の中心の位置 | 阿智村浪合384 |
| (3) 辺地度数 | 119点 |

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地は、標高1200mに位置する積雪寒冷地域であり、従来より農業を営んできた地域と、ゴルフ場、スキー場などの観光を中心とした地域とで構成されていますが、若者の流出が著しく後継者不足により年々過疎化が進んでいます。観光では国道153号線沿いにあり観光地としての環境には恵まれているものの、昭和40年代に開発された地域ということもあり、入り込み客の増加が図られていない状況にあります。

整備計画に載せた道路網については、この地域の生活路線として欠くことの出来ない重要な路線となっている一方で、ゴルフ・スキーシーズンには観光道路としての位置づけを持った道路としての機能を有しています。現在、村道の老朽化も進みひび割れているため、住民の日常生活に多大な支障をきたしており、道路の改良を行うことにより地域住民の日常の利便性や安全性を確保し、辺地住民の交通利便性の向上が期待されます。生活環境とあわせて、特産品の搬出路の確保も図られるため、主産業である農業の振興につながることや観光道路として集客性を高められることも期待されます。

本辺地を含む浪合地区は村の中でも標高が高く、積雪量も多い地域です。他の地区に比べ凍結防止散布車の稼働期間も長く、老朽化が進んでいます。凍結防止剤散布車を更新することにより、冬の路面凍結を防ぎ、安全安心に通行ができるようになります。

3 公共的施設の整備計画

平成30年度から平成34年度（2022年度）までの5年間 (単位 千円)

施設名	事業主体	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
村道改良3-519号線（焼野線）	阿智村	5,500		5,500	5,500
村道改良1-17号線（あららぎ線）		5,500		5,500	5,500
凍結防止散布車更新		浪合中央部辺地 へ一括掲載			
合 計		11,000	0	11,000	11,000

総 合 整 備 計 画 書

長野県 下伊那郡 阿智村 浪合東部辺地
(辺地の人口 95人 面積 2.1 k m²)

1 辺地の概要

- | | |
|--------------------|-------------|
| (1) 辺地を代表する町又は字の名称 | 阿智村 上半堀・下半堀 |
| (2) 地域の中心の位置 | 阿智村浪合759-2 |
| (3) 辺地度数 | 149点 |

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地は、従来より農林業を育んできた農業地域になります。気候と立地条件に恵まれないことから衰退するとともに、若者の流出が著しく年々過疎化が進んでいます。

村道2-28号線・3-510号線は幅員が狭くカーブも多いため、住民の日常生活に多大な支障をきたしています。道路の改良を行うことにより地域住民の日常の利便性や安全性を確保し、辺地住民の交通利便性の向上が期待されます。生活環境とあわせて、特産品の搬出路の確保も図られるため、主産業である農業の振興につながることや観光道路として集客性を高められることも期待されます。

本辺地を含む浪合地区は村の中でも標高が高く、積雪量も多い地域です。他の地区に比べ凍結防止散布車の稼働期間も長く、老朽化が進んでいます。凍結防止剤散布車を更新することにより、冬の路面凍結を防ぎ、安全安心に通行ができるようになります。

3 公共的施設の整備計画

平成30年度から平成34年度（2022年度）までの5年間 (単位 千円)

施設名	事業主体	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
村道改良2-28号線（一の萱線）	阿智村	5,000		5,000	5,000
村道改良3-510号線（平五郎）		5,000		5,000	5,000
凍結防止散布車更新		浪合中央部辺地 へ一括掲載			
合 計		10,000		10,000	10,000

総 合 整 備 計 画 書

長野県 下伊那郡 阿智村 浪合中央部辺地
(辺地の人口 187人 面積 0.7 km²)

1 辺地の概要

- | | |
|--------------------|---------------------|
| (1) 辺地を代表する町又は字の名称 | 阿智村 宮本・宮ノ原・中下町・浪合上町 |
| (2) 地域の中心の位置 | 阿智村浪合1032 |
| (3) 辺地地点数 | 117点 |

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地は、旧浪合村の中心地となる地域で、従来より農林業を育んできた農業地域と、波合関所跡、浪合神社などの歴史的財産による、観光地域とで形成されています。農業は気候と立地条件に恵まれないことから衰退するとともに、若者の流出が著しく年々過疎化が進んでいます。

整備計画に載せた道路網については、この地域の生活路線として欠くことの出来ない重要な路線となっています。現在、村道の老朽化が進みひび割れしており、住民の日常生活に多大な支障をきたしており、道路の改良を行うことにより地域住民の日常の利便性や安全性を確保し、辺地住民の交通利便性の向上が期待されます。生活環境とあわせて、特産品の搬出路の確保も図られるため、主産業である農業の振興につながることも期待されます。

本辺地を含む浪合地区は村の中でも標高が高く、積雪量も多い地域です。他の地区に比べ凍結防止散布車の稼働期間も長く、老朽化が進んでいます。凍結防止剤散布車を更新することにより、冬の路面凍結を防ぎ、安全安心に通行ができるようになります。

3 公共的施設の整備計画

平成30年度から平成34年度（2022年度）までの5年間

(単位 千円)

施 設 名	事業主体	事 業 費	財 源 内 訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
村道改良3-505号線（大平線）	阿智村	17,500		17,500	17,500
村道改良2-20号線（深沢線）		18,500		18,500	18,500
凍結防止散布車更新（浪合地区）		12,500		12,500	12,000
合 計		48,500		48,500	48,000

総 合 整 備 計 画 書

長野県 下伊那郡 阿智村 浪合治部坂辺地
(辺地の人口 82人 面積 3.2 k m²)

1 辺地の概要

- | | |
|--------------------|----------------|
| (1) 辺地を代表する町又は字の名称 | 阿智村 治部坂 |
| (2) 地域の中心の位置 | 阿智村浪合1192-1888 |
| (3) 辺地度数 | 1 4 1 点 |

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地は、標高1200mに位置する積雪寒冷地域であり、キャンプ場、スキー場、避暑地としての別荘開発など観光を中心とした地域です。国道153号線沿いにあり観光地としての環境には恵まれているものの、昭和40年代に開発された地域ということもあり、入り込み客の増加が図られていない状況です。

村道2-26号線については、この地域の生活路線として欠くことのできない重要な路線となっている一方で、観光シーズンには観光道路としての位置づけを持った道路としての機能を有していません。現在、村道の老朽化が進みひび割れているため、住民の日常生活に多大な支障をきたしており、道路の改良を行うことにより地域住民の日常の利便性や安全性を確保し、辺地住民の交通利便性の向上が期待されます。生活環境とあわせて、特産品の搬出路の確保も図られるため、主産業である農業の振興につながることや観光道路として集客性を高められることも期待されます。

本辺地を含む浪合地区は村の中でも標高が高く、積雪量も多い地域です。他の地区に比べ凍結防止散布車の稼働期間も長く、老朽化が進んでいます。凍結防止剤散布車を更新することにより、冬の路面凍結を防ぎ、安全安心に通行ができるようになります。

3 公共的施設の整備計画

平成30年度から平成34年度（2022年度）までの5年間

(単位 千円)

施設名	事業主体	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
村道改良2-26号線（もみじ平線）	阿智村	10,500		10,500	10,500
凍結防止散布車更新		浪合中央部辺地 へ一括掲載			
合 計		10,500		10,500	10,500

総合整備計画書

長野県 下伊那郡 阿智村 上清内路辺地
(辺地の人口 225人 面積 4.0 k m²)

1 辺地の概要

- | | |
|--------------------|-------------|
| (1) 辺地を代表する町又は字の名称 | 阿智村 上一、二、三区 |
| (2) 地域の中心の位置 | 阿智村清内路2035 |
| (3) 辺地度点数 | 1 3 2点 |

2 公共的施設の整備を必要とする事情

上清内路辺地は、阿智村の最北部に位置し、北端は南木曾町に接しており、地区を縦断する国道256号線沿いに小さな集落が点在しています。

本地域は美濃・三河地方との交流が深く、ろくろ工芸や花火づくりなどの独特な文化が見受けられます。また、この地域には古くから農地を確保するため、各家々が墓を持たず、住民すべてが一つの同じ墓に入る「一山一墓」という制度が残っています。国内でも稀有なこの風習からは、地域住民の結びつきの強さを窺い知ることができる半面、墓を持つ場所を確保することも惜しまれるほど平地が少ない地域であるともいえます。

本辺地では人口減少と高齢化が進む中、雇用の確保が喫緊の課題となっています。キャンプ場や宿泊施設、テニスコートなどを備えた「ふるさと村自然園」にある大型宿泊施設「森の家」を改修することにより、誘客を図るだけでなく雇用創出にもつながることが期待されます。また、農産物等の直売所「清内路健康の森」については24時間利用のトイレを設置することにより道の駅の登録をめざします。道の駅に登録されることで当施設の認知度が上がり、地域の活性化につながることが期待されます。

3 公共的施設の整備計画

平成30年度から平成34年度（2022年度）までの5年間

(単位 千円)

施設名	事業主体	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
清内路健康の森トイレ設置事業	阿智村	47,000	23,500	23,500	23,500
ふるさと村自然園森の家改修事業		60,000		60,000	60,000
合計		107,000	23,500	83,500	83,500